



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ
照らされて

明けまして
おめでどうぶじびます

明けまして

三島多聞
明と無明

私たちは、おめでと
うという言葉がけをよ
くします。ご結婚おめで
ととか、就職・進学・
昇進など祝い事に使いま
す。そして新年を迎える
時にも、おめでと
うと言います。
新年に当たり世界の人
びとが祝いします。英
語では「Happy New
Year」、新年が「Happy
Year」、新年が「Happy
Year」です。幸せでありま
すように。中国語では「新年好!」
新年がよい年であるよう
にと祝います。日本語で
は、「おめでと
う」の前
に「明けまして」を言
います。この「明けまして
」とは何のことでしょうか。
どうい
う意味が込められて使
われているのでし
うか。

辞書で調べると、「明
ける」は、「日が昇って
明るくなる」、「朝にな
る」、「夜が明ける」と
説明があります。
これを仏教的に理解して
みたいと思います。迷
いから解き放たれた世界を
「明」と表現します。それ
で、迷いの世界は「闇」、
いわば「夜」のこと。仏
教用語で「無明」と言
います。そうしますと、夜
が明けることは、「無明から
明」となることですから、
めでたいこととすし、あり
がたいことです。悩んだか
いがあった。苦しんだか
いがあった。生まれたか
いがあった、ということにな
ります。
「夜」は「明け」
のか。それは「日が昇る」



〈略歴〉一九四四年高山市生まれ。
真蓮寺住職。京都外国語大学、
大谷大学大学院仏教学科修士、
台湾師範大学研究所所長、中村
久子女史顕彰会代表。真宗大谷
派宗議会議員。二〇一五年から
一六年まで同派参務を務める。

からです。阿弥陀さまの
ことを「恵日」と言
い、
仏さまの「智慧の光」を
意味します。お念仏の光
明によって「無明の私」
が新しい気づきとともに
生きる「明るさ」を知って
いくこととなります。す
なわち「明るい朝になる」
わけです。
また、辞書には「期間
が終わる、満期になる」
ことを「明け」とありま
す。これは夜の時間が終
わって朝の時を迎えるこ
とを指しますが、それば
かりでなくいろいろな言
葉になって使われていま
す。例えば、喪中の期
間が終わって、喪が明け
る、忌中が終わって、忌
明けとなる。幾年かの年季
奉公を勤め終わって独立

していくことを「年季奉公
が明けた」と言います。
それで「明けまして」
とは何か。今一度振り
返って考えてみたいと思
います。
新年を迎えることがで
きたことの中味は、昨年
一年間はどのような期間
であったかが問われて
いることでもあります。
そして新年に当たり、昨
年一年間の歩み、努力、
生活、そして進歩があっ
たであろうことを察して、
「明けましておめでと
う」と挨拶を受けているのだ
と理解しますと、新年の
祝い挨拶こそは、昨年の
自分の歩みを自問させ、
反省させるはたらきとな
ります。だから、「一年の
計は元日にあり」となっ
て、襟を正す新年の始ま
りとなるのでし
う。

新年に当たり、自分の
歳だけ「明けましておめ
でと
う」と、祝いかけら
れ、よろこばれてきてい
るのですが、果たして
年々歳々、報恩感謝と
なっているかどうか。歳
を重ねるにつれて自分の
生きかたにおいて、改め
て「日(光明)が昇る」こ
との意味を深めてまいり
たいと思います。
仏教用語に「勝過」
(勝れて充実して過す)

月が昇る
今度は「月」に登場し
てもらいます。
ありがたや
けふ(今日)満つる月と
知らざりし
このおほき(大きい)月
海にのぼれり
牧水
月の満つるは、幾度も
見てきたはず。しかし、
「今日、満つる」とは、
自覚の問題。感動とも
に月を見たであろう今日
は、生まれて初めての事。
「ありがたや!」の一言
は、彼の人生の転換を言っ
ている。初めて見る「月」、
初めて仰ぐ「日」は、
我々一人ひとりの人生の
課題です。
「明けましておめでと
う」

別院真宗公開講座のご案内
講師 たかはし ほうしん 高橋 法信氏 (大阪教区)
テーマ 「帰ろう、もとのいのちへ」
日時 2017年2月17日(金) 午後2時から4時
会場 高山別院 御坊会館
聴講料 600円

「高山別院照蓮寺年間行事」の
誤記に関するお詫び
先般、各御寺院様を通じてお送りしまし
たリーフレット「高山別院照蓮寺年間行
事」一覧表(縦長水色)の中で、高山別
院テレホン法話の電話番号を「0577
-34-2313」と記載すべきところを
「0577-32-2313」と誤って記載
してしまいました。ご迷惑おかけしまし
たこと心よりお詫びし、訂正をお願
い申し上げます。

新春のご挨拶
高山教務所長 出雲路 善公
高山別院輪番
明けましておめでと
うございます。旧年中は高山
別院の護持運営にご協力賜りましたこと厚く御礼申
しあげます。また、親鸞聖人七百五十回御遠忌懇志
として、ご住職をはじめご門徒、有縁の皆さまのご
協力をいただき、感謝申し上げます。昨年四月から
の第一期工事が完了し、秋には新しい屋根のもとで
多くのご門徒とともに報恩講を厳修することが出来
ました。今後第二期工事(耐震工事)に向けて引き続
きご協力を賜りますようお願いいたします。
毎年元旦・修正会では「門徒弟子の御文」が拝読
されます。蓮如上人の僧分に対する戒めとして、
「僧侶の中で門徒を弟子と考え所有物のように扱っ
ているが、そのようなことでは僧侶も門徒も共に信
心を決定することはできない」と述べられています。
「自分が門徒を教化しているんだという傲慢な思
いから教えを説くのではなく、その説かれた教えによ
って自らも門徒と共に教化されているということ
を忘れてはならない。そのことによって、はじめて
御同朋・御同行といえるのだ」と。
この度の御遠忌では、御同朋・御同行の精神に基
づき、ともに教えを聞くものとして「同朋唱和」を
推進していきたいと思
います。一人でも多くの方
々にお参りいただき、来
る御遠忌には本堂内をお
念仏の声で埋め尽くした
いものです。何卒よろしくお願
いいたします。

飛驒御坊御遠忌七五〇

高山教区・高山別院 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

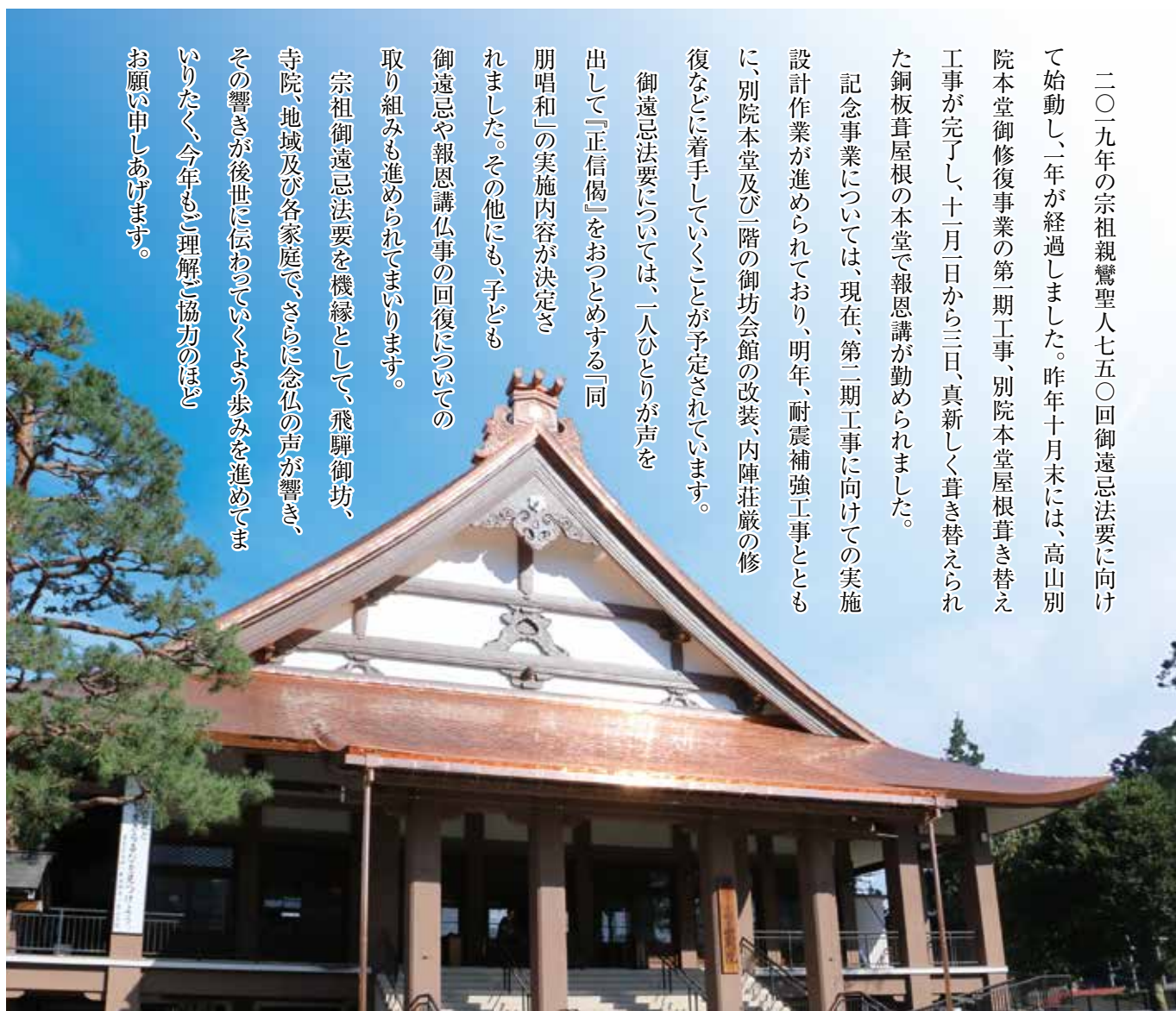
二〇一九(平成三十一)年五月十日〜十二日 厳修

記念事業 高山別院本堂等御修復工事

第一期 屋根葺き替え工事を完了

第二期 耐震補強を中心とした本堂整備工事を推進

法要教化事業 同朋唱和による御遠忌法要を



二〇一九年の宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要に向けて始動し、一年が経過しました。昨年十月末には、高山別院本堂御修復事業の第一期工事、別院本堂屋根葺き替え工事が完了し、十一月一日から三日、真新しく葺き替えられた銅板葺屋根の本堂で報恩講が勤められました。

記念事業については、現在、第二期工事に向けての実施設計作業が進められており、明年、耐震補強工事とともに、別院本堂及び二階の御坊会館の改装、内陣荘嚴の修復などに着手していくことが予定されています。

御遠忌法要については、一人ひとりが声を

出して「正信偈」をおつとめする「同朋唱和」の実施内容が決定されました。その他にも、子ども御遠忌や報恩講仏事の回復についての取り組みも進められてまいります。

宗祖御遠忌法要を機縁として、飛驒御坊、寺院、地域及び各家庭で、さらに念仏の声が響き、その響きが後世に伝わっていくよう歩みを進めてまいりたく、今年もご理解と協力のほどお願い申し上げます。

記念事業 高山別院本堂等御修復工事

《第一期 本堂屋根葺き替え工事》



本堂屋根葺き替え・庫裡改修工事の流れ 2016年4月～10月末

- ① 既設瓦の撤去作業。葺かれていた瓦は、昭和33年に関市で焼かれた特注瓦で、最も多い棧瓦が1万枚以上あり、瓦の総重量は150トン以上もありました。
- ② 母屋受け及び母屋の施工が完了した屋根。屋根コンクリート面には凹凸があり、これを解消し屋根面の高さレベルを整えながらの工事となりました。
- ③ 垂木そして野地板の施工。この上にルーフィング(防水シート)が敷かれます。
- ④ 本堂屋根前方の葺甲(曲線部分)の木工事。
- ⑤ 大棟の下地木工事。
- ⑥ 銅板葺き工事。厚さ0.4ミリ、六ツ切りという規格の銅板で葺かれました。
- ⑦ 大棟獅子口に設置された牡丹紋。
- ⑧ 大棟獅子口の設置が完了。その後、雨樋の設置、避雷針の敷設工事が行われ、屋根葺き替え工事が完了しました。
- ⑨ 庫裡書院に新設された、広々とした来客用便所。この他に水屋の改修工事が行われました。

《第二期工事に向けて》

耐震補強方法については、景観への配慮を考え、新たに格子状の鉄骨による補強方法を採用することが決定されました。

また、昨年、本堂内部の整備工事について詳細な検討が行われ、これをもとに、現在、実施設計作業が進められています。今後、その内容にさらに確認を加え、第二期工事の設計内容を最終確定させ、業者発注作業を行ってまいります。

同朋唱和

——ともに正信偈のおつとめを——

御遠忌法要二日目の五月十一日には、一人ひとりが声を出して「正信偈」を同朋唱和でおつとめすることが決定されました。

「正信偈」とは、親鸞聖人が南無阿弥陀仏のいわれを端的に示されたうたであり、「同朋唱和」とは聖人が大切にされた「御同朋」の精神に基づき、僧侶と門徒がともに声を出しおつとめすることをいいます。別院本堂いっばいに「正信偈」の音が響きわたるような御遠忌としてまいります。

近年、仏事の中で、または家庭の中でお勤めの声が聞こえなくなっています。宗祖の御遠忌を機に、今あらためて、ともに「おつとめをする」との意味を確かめ、次の世代にも正信偈の響きあう声、お念仏の伝統を伝えていきたいと願っています。



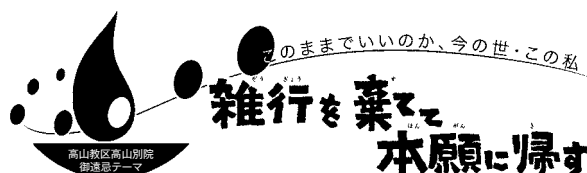
御遠忌・御修復懇志金御進納御礼

御遠忌御修復懇志金の2017年1月6日現在における収納状況について、次の通り御進納いただきました。

収納総額 **220,960,500円** (進納率52%)

厳しい経済環境のなか、尊い御懇念をお寄せいただき誠にありがとうございます。

今後とも何卒ご理解・ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。



定例法座・法話(午後1時から) ○1月21日(土)：杉野明真氏「照蓮寺」 ○1月27日(金)：出雲路善公輪番 ○1月28日(土)：平野真氏「本教寺」 ○2月1日(水)：白川悟氏「願生寺」 ○2月11日(土)：出雲路善公輪番 ○2月13日(月)：森恒河氏「秋聲寺」